

1. 内政

▼フィラト内閣不信任決議案提出に関する動き

- ・25日、ルプ議会議長(民主党党首)は、同党はフィラト首相の辞任を持って最初から全てをやり直す必要があると考える、同首相が辞任を拒否する場合は、民主党は内閣不信任決議案を提出するか他の勢力による同様のイニシアチブを支持する用意がある旨発言。これに対し、同日、ストリェツ自由民主党議会会派代表は、ルプ議長発言は挑発に過ぎず、フィラト首相が辞任することはない旨発言。
- ・27日、ティモフティ大統領は、与党連合AEI各党間の和解を呼びかける声明を発表。
- ・28日、共産党は、フィラト内閣は政府として活動を継続する権利を失ったとし同内閣の不信任決議案を議会に提出。レシエニコフ同党議員は、3月5日予定の次回議会本会議における同案審議を求める旨表明。これに対し、ティモフティ大統領は、内閣不信任決議案採択には反対であるとし与党連合AEI各党代表に合意に向けた努力を続けるよう再度呼びかける旨発言。また、同大統領は、同日、内閣不信任決議案の支持を表明しているルプ議会議長と会談し、問題解決の方策に関し協議。
- ・1日、与党連合各党代表は、3者間の協議を行ったものの合意には至らなかった旨発表。

▼閣僚の任命

- ・26日、ティモフティ大統領は、フィラト首相の提案を受け、ツィク・モルドバ自由国際大学国際関係・政治学部長を青年・スポーツ相に任命する大統領令を発出。

2. 経済

▼マクロ経済

- ・1日、ラザル副首相兼経済相は、2012年のモルドバのGDPがわずかにマイナスになるとともに、政府の公式発表は3月15日に公開されるであろう旨発言。

▼IMF

- ・25日、IMFは予定されていた27日からのミッション調査団の派遣がモルドバ政府との合意の上、再度延期になった旨発表。

3. 外政

▼シュワルツェンベルグ・チェコ副首相兼外相の来訪

- ・1日、ティモフティ大統領は、来訪したシュワルツェンベルグ・チェコ副首相兼外相と会談。同副首相兼外相は、モルド

バ国内の改革の進展を指摘した一方、最近の内政状況に対し懸念を表明。ティモフティ大統領は、状況改善に向け尽力する旨発言。

- ・1日、フィラト首相は、シュワルツェンベルグ副首相兼外相と会談し、モルドバの欧州統合に向けた課題及び国内の社会・政治状況に関し協議。フィラト首相は、政府は外国のパートナーに対する義務を履行する必要がある旨発言し、EUと合意した議題の変更をしてはならない旨強調。シュワルツェンベルグ副首相兼外相は、モルドバの欧州統合路線を支持するとし交渉の早期終了への期待を表明。

- ・1日、シュワルツェンベルグ副首相兼外相は、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相との共同記者会見において年末までにEU・モルドバ連合協定署名の可能性はある旨発言。会談後、両大臣は、モルドバ・チェコ・ビジネスフォーラムに出席。

▼リンケビチュウス・リトアニア外相の来訪

- ・1日、ティモフティ大統領は、来訪したリンケビチュウス・リトアニア外相と会談し、モルドバの欧州統合、現在の政治危機及び沿ドニエストル紛争問題に関し協議。ティモフティ大統領は、モルドバにとり今秋のビリニウスでの東方パートナーシップ首脳会合は重要である旨強調し、リンケビチュウス外相は、リトアニアはモルドバの欧州統合を支持する旨発言し、内政問題を解決することが重要である旨発言。

- ・1日、リンケビチュウス外相は、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相との共同記者会見においてモルドバには政治危機を克服し欧州統合のための義務を履行する潜在力がある旨発言。

▼その他

- ・27日、フィラト首相は、3月11日～15日にブリュッセルで開催予定のモルドバ・EU間のDCFTA及び連合協定交渉において同交渉の終了を目指す旨発言。
- ・27日、ラザル副首相兼経済相は、2013年第1四半期ロシア産ガスの輸入価格は対前期比7ドル安の383ドル／千立方メートルである旨発表。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)